

## II 研究開発の概要

### 1 本校の概要

#### (1) 学校名・校長名

岐阜県立大垣北高等学校 校長 増田俊彦

#### (2) 所在地・電話番号・FAX番号

岐阜県大垣市中川町4丁目110番地の1

電話番号 (0584) 81-2244 (代表)

FAX番号 (0584) 74-8165

#### (3) 課程・学科・学年別生徒数、生徒数及び教職員数(平成30年4月1日現在)

##### ① 課程・学科・学年別生徒数、学級数

課程・学科 全日制・普通科

学年別生徒数

学年別学級数

	男	女	在籍数計	学級数
1年	164	161	325	8
2年	164	154	318	8
3年	181	142	323	8

##### ② 教職員数

校長	教頭	教諭	養護教諭	実習助手	常勤講師	非常勤講師	司書	事務職員	業務専門職	ALT	計
1	1	51	2	1	1	10	1	4	2	1	75

### 2 研究開発構想名

清流の国ぎふ アジアを学び世界をつなぐ1600人のリーダー育成

### 3 研究開発の目的・目標

#### (1) 目的と目指す生徒像

岐阜県、我が国と関わりの深い東アジア・東南アジア諸国の社会・ビジネス課題に関する優れた知見・経験を有する大学・企業等と密接な関係を図り、グローバル・リーダーの育成に資する課題研究に取り組む教育課程を確立するとともに、その成果を検証して県内及び全国の高等学校に普及を図り、高校教育改革を推進する。

##### 〈目指す生徒像〉

◇将来、国際社会を舞台にリーダーとして社会に貢献しようという志を持って、主体的に学び続け、希望する進路を実現する生徒

◇課題発見力・設定力を持ち、他者と協力して課題解決できる力を身に付けた生徒

◇論理的思考力・表現力を身に付け、物事を多面的かつ総合的に捉えることができる生徒

◇多様な文化や価値観に対する理解や、日本の歴史や伝統文化等に関する教養を身に付けた生徒

◇高い外国語コミュニケーション能力を身に付け、異質な他者と適切なコミュニケーションを図ることができる生徒

## (2) 目標

- ・文理問わず全生徒（学年 320 名、平成 26 年度から学年進行で実施）を対象として、大学や企業との連携の下で、グローバルな社会・ビジネス課題を題材とした課題研究を行う「SGH 課題研究」の教育カリキュラムを確立する。
- ・平成 30 年度末までに、計 1600 人の生徒を対象に、体系的・系統的な「SGH 課題研究」を実施し、グローバル・リーダーとしての資質・能力を育成する。
- ・SGH 事業を通じて目標設定シートに示す各アウトカム・アウトプット指標の達成を目指す。また、グローバルな社会・ビジネス課題等を題材とした課題研究等が生徒にどのような変容をもたらすかなど、効果の検証や評価について、大学等と協働で調査研究を進め、グローバル・リーダーの育成に資する課題研究等の在り方を明らかにする。

## 4 研究開発の概要

- ・学校設定科目「SGH 課題研究」（1・2 年生各 2 単位、3 年生 1 単位の計 5 単位）を導入し、文理問わず全生徒を対象に課題研究を実施する教育課程を開発。※平成 30 年度 1 年生は「SGH 探究」1 単位
- ・特にアジアにおける社会・ビジネス課題を題材とし、専門的な知見を有する大学（東京大学）やアジアで事業展開する大垣のグローバル企業等と連携を図り、カンボジア・ベトナムでの海外フィールドワーク及びインターンシップを効果的に位置付けて課題研究を実施。
- ・各教科での言語活動の充実や英語の授業と課題研究との効果的な連携を図るとともに、課題研究の実施に資する高大連携事業を積極的に実施する。また、国語の授業で、課題研究の基盤となる論理的思考力・表現力を身に付ける言語技術指導を導入するなど、相乗効果が発揮できる教育課程を開発する。

## 5 研究開発の仮説及び内容・方法・検証等

### (1) 現状の分析と課題

大垣北高等学校が立地している岐阜県大垣市は、西濃地区の中核となる人口約 16 万人の都市である。かつては豊富な地下水を利用した繊維産業が盛んであったが、現在は、東アジア、東南アジア諸国を中心にグローバルな事業展開を行っている大垣共立銀行、(株)イビデン、(株)セイノーHD、(株)太平洋工業、(株)矢橋 HD など、岐阜県あるいは東海地区を代表する企業が数多く存在する。

大垣北高等学校は、新卒生・既卒生合わせて、国公立大学へ 200 人以上、旧帝国大学・国公立大学医学部へ 50 名以上が合格し、ほぼ全員が 4 年制大学に進学する東海地方を代表する普通科進学校の一つであり、地元企業からグローバル・リーダー育成に向けて大きな期待が寄せられている。このため本校では、従来から旧制中学の名残のある多くの学校行事や全員加入の部活動などにより、逞しい人材作りに努めてきた。

SGH 事業申請にあたって「グローバル・リーダー育成のための生徒意識行動調査」（以下、意識行動調査）を実施した。その結果、本校生徒の現状として、以下の現状と課題が明らかになった。

- ・本校生徒は、大学進学に向けて、比較的明確な目的意識を持ち、学習習慣も身に付いており、学習時間も多い。
- ・SGH 事業が目指す、課題探究的な学習、発表や議論の場の充実、大学や企業等との連携については、多くの生徒が、自らの力を高められると考えている。
- ・探究心や論理的・批判的な思考力等の汎用的能力については、比較的肯定的な自己評価であり、ポテンシャルの高

い生徒集団であることが伺えるが、課題研究を通じて、これらを着実に高めていくことが必要である。

- ・自ら様々な活動や自己研鑽の機会を求めていく行動力や、新聞や書籍等を通じて、社会経済について学ぶ姿勢は弱い面がある。また、留学希望や国際社会で活躍する意思、国際情勢への関心や外国語学習への意識等の国際的な視野も、将来、グローバル・リーダーとして活躍が期待される生徒としては課題があり、これらを着実に高めていくことが必要である。
- ・自分の考えを文章や図表にまとめる、他者に分かりやすく説明するなど、アウトプットする力には自信がない生徒が多く、論理的表現力等を高めていくことが課題である。

## (2) 研究開発の仮説

上記(1)の分析結果から、SGH事業の実施によって、グローバル・リーダーに必要な資質を身に付けさせるための研究開発の仮説を次のように設定した。

### 【仮説1-1】学校設定科目「SGH 課題研究」の実施

大学・企業等との定常的な連携により、大学教員・大学院生や企業人等による指導助言、フィードバックを受けながら、個人研究とグループ研究を効果的に組み合わせた系統的・段階的な課題研究を行うことにより、以下のような効果が期待できる。

- ・ 課題発見力や設定力や、他者と協力して解決できる力が育まれる。
- ・ 論理的思考力・表現力を高めることができる。
- ・ 多面的かつ総合的なものの見方を身に付けることができる。
- ・ 知的好奇心が喚起され、大学での学びに対する興味・関心が深まり、自律的に学び続ける意欲を醸成することができる。

### 【仮説1-2】学校設定科目「SGH 課題研究」の実施

自らがグローバルなフィールドで活躍する大学教員から指導を受けたり、海外フィールドワーク、インターンシップ、世界各国から集う留学生等とのディスカッションやインタビュー等の活動を行ったりすることにより、以下のような効果が期待できる。

- ・ 国際社会に対する関心や教養、世界を舞台に活躍したいという意欲が養われる。
- ・ 多様な文化や価値観等に対する理解とともに、日本の歴史や伝統文化等に関する教養を身に付けることができる。
- ・ 異質な他者との適切なコミュニケーションを図る力を育むことができる。

### 【仮説2】課題研究の基礎となる言語技術指導の導入

1年次の国語総合を中心に、言語技術指導プログラムを実施するとともに、各教科における言語活動の充実を図ることにより、国際的に通用する論理的思考力・表現力を育成することができる。

### 【仮説3】課題研究と英語授業のコラボレーション

課題研究と英語の授業の効果的な連携を図り、英語の授業において、課題研究で必要とされる英語力を育成するとともに、課題研究に関わるプレゼンテーションやディスカッション等の機会を積極的に設けることにより、英語学習への強い意欲を喚起し、英語によるコミュニケーション能力の伸長を図ることができる。

## (3) 課題研究の方法・内容・検証方法

### ■ 「SGH 課題研究1」(1年生)(26年度開始)

#### 【方法】

- ◆1年生8クラス322名全員を対象に、金曜日の総合的な学習の時間(SGH探究)の中で実施する。

- ◆クラス単位での実施を基本とするが、全体講演会（8クラス）、希望別講演会（10数名～）等、柔軟に実施単位を変更して行う。
- ◆連携先大学である岐阜大学医学部・工学部・応用生物科学部、滋賀大学経済学部、名古屋外国語大学等から随時ティーチングアシスタント（TA）が来校し、生徒のインタビューに答える体制を構築する。

### 【内容】

- ◇入門講座として、グローバル課題に関わる講演会、情報モラル・情報スキル講座、フィールドワーク入門講座等を体験実施し、ローカル課題を研究対象とする中で、思考のための基礎的能力を育成する。
- ◇岐阜県職員の講演とワークショップ、高山市へのフィールドワークを通して県内の課題を発見し、仮説としてその原因と解決策を立て、ポスターやプレゼントしてまとめる。
- ◇高大連携や企業連携を積極的に進め、グローバル化に力を入れている大学や企業を訪問して、グローバル社会の中で研究者や企業家がどのように社会貢献を行っているのかを研修する。
- ◇「国際開発」「国際ビジネス」「環境・エネルギー」「国際医療」「比較教育」に関わる大学教官による講演会で、グローバル課題に対するアカデミックなアプローチに触れ、論文作成講座の中でリサーチクエスチョンに基づく研究方法を学び、グループで課題設定とその解決策を考え、その成果を各個人が日本語論文としてまとめる。
- ◇探究活動で学んだ内容を相手に伝えるための日本語プレゼンテーションを作成し、クラス・学年でグループ発表を行う。また、学年末には、まとめた論文を英語エッセイにまとめる。

## ■「SGH 課題研究 2」（2年生）（27年度開始）

### 【方法】

- ◆2年生 8クラス 325名全員を対象に、水曜日に2時間連続で実施する。
- ◆文系3クラス、理系5クラスを3クラスと2クラスに分割し、計3ユニットを構成する。
- ◆1年間を4期に分け、1期はクラス単位での実施を基本とする。2期は5領域に分かれてゼミ形式（5名程度）の授業展開とする。3期と4期はゼミ形式とクラス単位を適宜活用して展開する。
- ◆連携大学の教官やTA 大学院生（留学生を含む）からの指導が随時受けられる体制を構築する。

### 【内容】

- ◇5領域の枠を超え、クラス単位で「課題解決型ワークショップ」を行い、他者との共同作業を通じて、柔軟かつ論理的な思考力を身に付ける。
- ◇5領域の枠内で更に焦点を絞り、アジアの持続可能な成長に資する研究をゼミ形式の授業の中で深化させ、日本語論文作成及びプレゼンテーションで論理的に表現する能力を高める。
- ◇5領域での学びを英語論文にまとめ、更に英語プレゼンテーションを行う。

## ■「SGH 課題研究 3」（3年生）（28年度開始）

### 【方法】

- ◆3年生前期の選択授業として、土曜日に2時間連続授業を実施する。
- ◆外国人教師を招き、英語を用いてグローバル課題の解決提案を目指した授業展開を実施する。

### 【内容】

- ◇1・2年生で学んできた「アジアの持続可能性に資する5領域の研究」の深化を図るために、全ての過程で英語を用いて、更に幅広い知識を身に付けるとともに、課題解決のための意見交換及び意見発

表のほか、成果普及活動を行うことを最終的な目標として定める。

## ■「課題研究」の検証方法

### ○生徒意識行動調査による評価

1年生及び2年生（SGH 該当生徒）に対して5月・1月の2回、生徒意識行動調査を実施して、SGH 該当生徒の変容を数値化し、SGH 事業の効果を検証した。また、普通科進学高校で環境は似かよっているが「課題研究」を実施していない県立高校2校を対象グループ（control group）として設定して同様の調査を行うことで、明確かつ客観的にSGH 事業の成果を明らかにする。

### ○保護者アンケート・教職員アンケートによる評価

SGH 該当学年である1・2年生保護者に、1月にアンケートを実施することで、保護者の意識変容について明確にする。また、教職員に対してもアンケートを実施し、SGH 該当学年所属教員と非所属教員との比較分析を行うことで、SGH 事業実施による教職員の意識変容を明らかにする。

### ○生徒成果物等を元にした評価、連携機関からの評価

生徒の作成したレポート、報告書、日本語研究論文、英語エッセイ、プレゼンテーション等の成果物に対するルーブリック評価を実施することで形成的評価と総括的評価を実施する。

### ○アウトカム、アウトプット指標（SGH 事業達成目標シート）の達成状況に関する評価

### ○卒業生への追跡調査（大学1年生対象）

グローバル意識の指標の1つとして、海外留学・研修の可否を検証する。将来的には、就職先も含めた追跡調査も実施する。

## （4）課題研究以外の取組内容・実施方法・検証方法

### ■「言語技術指導とそれを基にした言語活動による論理的思考力・表現力の育成」

#### 【内容・方法】

- ◆「国語総合」（1年生）を中心に、「対話の技術」「物語の技術」「情報伝達の技術」「パラグラフ・ライティングの技術」等の言語技術の指導を行い、文章の読み方、討論の仕方、文章の書き方等を習得していくことにより、論理的思考力・表現力の育成を図る。
- ◆1・2年生の各教科において、問題解決型の学習を導入し、グループディスカッションやクラス内発表会を実施したりするなど、論理的な思考力を養うために言語活動を活発化させる。
- ◆1年生前半で習得した言語技術を活用して、論理展開が明確で主張がはっきりとした日本語論文【1年後期(1,500字以上)・2年後期(5,000字以上)】及びプレゼンテーションを完成させる。

#### 【検証方法】

- 小論文、エッセイ、レポート、プレゼンテーション、発言内容及び考査における記述内容など
- 授業評価、生徒の意識行動調査における生徒の意識変容

### ■「英語によるコミュニケーション能力の伸長」

#### 【内容・方法】

- ◆26年度入学生から学年進行で、全ての英語授業において4技能を総合的に取り入れた英語授業改善を実施する。具体的には、英語のニュースを聞いたり、課題研究テーマに関連するジャーナル記事やホームページを読んだりして調査を行い、その内容についてディスカッションすることで思考を深め、最終的に英語エッセイにまとめる等の授業を実施し、グローバル・リーダーの資質として必要な英語運用能力と論理的思考力・表現力等を養う。

- ◆課題研究において、英語の授業改善で身に付けた技能を実践していく等、課題研究と英語の授業改善を有機的に結び付ける年間指導計画を策定して、相互補強を図る指導法を開発する。
- ◆実践的コミュニケーション活動の場として、英語スピーチ大会等の英語によるコミュニケーション活動に積極的に参加し、英語学習への意欲を高める。また、海外フィールドワークを実施して、海外の高校生と課題解決に向けてのディスカッション等を行い、グローバル・リーダーとして必要な資質として、課題解決能力に加えて、説得力や交渉力等を養う。

**【検証方法】**

- 外部検定試験を受験し、国際的な基準で生徒の英語力を評価検証する。
- 生徒質問紙調査を実施し、英語学習に対する意欲、方法、環境、態度について検証する。

**6 必要となる教育課程上の特例等**

(1 年生全生徒対象) (平成 29 年度まで)

- 学校設定科目「SGH 課題研究 1」1 単位分で、「総合的な学習の時間」1 単位を代替する。
- 学校設定科目「SGH 課題研究 1」1 単位分で、「社会と情報」1 単位を代替する。

(2 年生全生徒対象)

- 学校設定科目「SGH 課題研究 2」1 単位分で、「総合的な学習の時間」1 単位を代替する。
- 学校設定科目「SGH 課題研究 2」1 単位分で、「社会と情報」1 単位を代替する。

(3 年生希望者対象)

- 土曜日実施の選択授業を、「SGH 課題研究 3」1 単位分として増単する。

**7 研究開発組織の概要**

